

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果市町村受理日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々に合った暮らしとなるよう、食事は好みに合わせて提供するように心がけています。また、夏場などのドライブでは、それぞれの行きたいところを聞き意向に沿うように目的地を決めています。隣接した他の福祉施設と協力し、お互いの行事に参加するなど交流を深めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0177400231-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「沼田町認知症高齢者グループホームなごみ」は町が運営しており、広い敷地内に同運営の養護老人ホームと、特別養護老人ホームに隣接して建っている。建物は平屋建ての1ユニットで、町が一体的に取り組む高齢者福祉サービスの一環として開設し、17年が経過している。利用者は特養施設の行事や夏祭りに参加するほか、毎年「沼田町夜高あんどん祭り」を見物したり、「町民芸術祭」には個々の作品なども出品して町民と親しく交流している。会話から行きたい場所を把握して外出行事に組み入れたり、100円ショップなどで買い物を楽しんでいる。入居後も馴染みの来訪者が多く、内外での趣味活動を継続して今までの暮らしができるように支えている。施設長と管理者は、職員の資質向上に向けて熱心に取り組みながら意欲的に働くことが出来るように環境を整えている。職員は交代で研修に参加し、会議で全職員が共有して日々のケアに活かしている。前回の課題にも積極的な姿勢で取り組み、ほぼ達成している。運営推進会議と同日に避難訓練を行い、災害時や緊急時には法人施設の職員が駆けつけるなどの協力体制を整備し、家族の安心感に繋がっている。職員は日々意欲的に学び、職員間のコミュニケーションを図りながら、可能な限り利用者の意向に沿って見守り、優しい言葉がけで良質のサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の事務所や目立つ場所に掲示しており、職員一人ひとりが意識し実践に結び付けるよう努力している。	経営理念とケア理念を要所に掲示し、地域の人と共に暮らせる生活環境を作り、行事や町のイベントなどに参加して実践している。職員は理念の内容を理解しており、自己評価の作成時や利用者に接している時に理念を再確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設の行事へ参加したり、町民芸術祭に作品を出品する等して地域との交流を深めている。また、散歩の中で近所の方と挨拶を交わしたり、近隣の方や家族から自宅で取れた野菜や果物などを頂く事もある。	毎年の「沼田町夜高あんどん祭り」に出かけ、夜間帯も見物して町民と一緒に楽しんでいる。「町民芸術祭」には作品を出品し、会場で声をかけられることもある。町内会の花壇整備などで、近隣の人や子供との身近な触れ合いの場作りも考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症サポーター講座を行い、認知症への理解を地域の方々や家族へ発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年に6回開催しています。行事と組み合わせながら開催することで、利用者の日常を見ていただけるようにし、様々な意見をいただいている。	会議と避難訓練を同日に行ったり、会議の中に家族交流会を企画するなど、工夫しながら開催しているが、その他の会議は固定した1~2名の家族参加になっている。会議では現状や行事、外部評価結果などの報告を行い意見を聴いている。	家族の関心あるテーマなど、各会議のメインテーマを設定して案内状を送り、参加できない家族の意見も得て会議の話題にし、意見・情報交換の場となるような工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町で運営している施設のため、町の担当者とも顔なじみでまめに情報交換を行なえる環境です。また、社会福祉協議会とも連絡を密に行い、情報の共有や交換をし協力関係を築いています。	施設長は制度や設備などで担当者に確認し、情報を交換している。事業運営の役職者が認知症サポーター養成講座の講師になり、町民を対象に認知症理解への普及に協力している。職員は町主催の研修に参加してケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したりしながら理解を深めている。日中は玄関には施錠せず、自由に外へ出られるようにしており、外へ出たいという利用者にはその都度付き添い対応している。万が一の場合に備えて、玄関にはセンサーを置いて安全に過ごせるようにしている。	整備している「身体拘束排除マニュアル」に、「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を追記して、更に職員間で理解を深める意向である。身体拘束禁止の外部研修に参加した職員は全体会議で発表し、資料の閲覧などで共有して拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加した職員が、全体会議で報告し理解を深めている。また、職員同士がお互いに注意し合えることで、意識を高め虐待防止に努めている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している利用者はいないが、資格取得を目指す中で個々に学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約や重要事項説明書についても丁寧な説明を心がけています。時間がたつてからでも、不明な点があればその都度説明し理解していただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族交流会ではアンケートを行ったり、面会時にはその都度最近の様子をお話するなどして、家族の意見を伺うようにしています。また、家族から寄せられた意見は連絡ノートへ記入し全体会議で周知しています。利用者の意見は普段の会話の中から汲み取り、出来る限り取り入れるようにしています。	家族交流会で行っているアンケート調査で、今後は項目の見直しやアンケート収集の工夫で、更に家族の率直な意見が得られるよう方法を検討している。来訪時に得た意見などは「連絡ノート」で把握しているが、家族の些細な想いをも共有できるように個別の記録化を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員全体会議を設け、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、日常業務の中で気になる点はその都度管理者が聞き検討している。	会議では管理者がケアの心得を伝えたり、職員からの意見を基に活発に意見を交換して現場の意向を取り入れている。施設長と管理者は必要に応じて職員と個別に話しあい、労務環境や研修の受講などで働きやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日訪れ、職員の勤務状況の把握に努めている。職員が働きやすい環境を整備するよう、給与水準の見直しなども行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が満遍なく研修等に参加できるように配慮し、研修で学んだことは全体会議で報告し周知するよう心がけている。また、近隣施設とも連携しながら学ぶ機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った同業者との交流はあるが、個人的な交流にとどまっている。近隣の施設職員とは顔なじみも多く、行事に参加するなどして交流がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談で情報を集め、対話を通じて要望を聞き、職員間で情報を共有することで関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の要望を聞き、安心していただけるよう、面会の際には話しやすい環境を作り、困っていることなどを聴き関係作りを行なっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況を確認しながら始めています。最初の相談時に本人や家族の思い、今までの状況を確認し何が必要か協議しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族のような」という理念に沿うよう、一緒に掃除や洗濯物たたみなど行い、互いに必要な存在になるよう心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況の報告をし情報の共有をしています。家族と協力して本人を支えられるよう、家族も来所しやすい雰囲気を作るよう心がけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで続けてきたことを継続できるように支援したり、友人や知人も来訪しやすいよう心がけている。また、馴染みのお店なども利用できるよう美容院など馴染みのお店へ送迎している。	地元の入居者が多く、暮らしの中で馴染みの人や場との関係が自然に継続されている。同級生、近所の人、趣味や元職場仲間などの来訪があり、月命日にお坊さんが来訪している方もいる。住んでいた場所を見に行くなど、気懸りな事に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性には留意し、トラブルにならないよう配慮している。また、レクなども行ないながら孤立しないように努めている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援状況の引継ぎを行い、新しい場所にも馴染めるように配慮している。街中などで家族とお会いしたときには挨拶を交わし近況の話をするこもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情の中から本人の思いなどを聞き取り、可能な限り実現できるよう努めている。困難な場合は本人が納得できるように話し合っている。	会話から得た希望に沿って、利用者の主体性を活かしながら検討している。フェイスシートを個人ファイルに整理し半年ごとに更新している。今後はシートに趣味や嗜好の変化などの追記も考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族や本人から生活歴などの情報を聞き取り、職員間で情報の共有を行うようにし、会話の中からも情報を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話や活動の中から、心身状況を見て出来ることや興味の有る事の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切に、カンファレンスの中で出る意見やアイデアから介護計画を作成している。また、介護計画は3~4ヶ月の期間で見直し作成しています。	介護計画の見直し時には、職員の意見を取り入れてモニタリング表を作成し、カンファレンスで意見を交換後に更新計画を作成している。今後は職員のモニタリング記録を参考に表を作成し、更に短期目標に沿ってサービス内容の評価を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は介護計画に沿って記録し、全職員が確認できるようにしている。また、その都度連絡ノートに気づいたことを記入することで情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を見て、その時々に必要なサービスに対応できるよう、出来る範囲で話し合いながら対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや美容院、病院は町内の施設を利用しています。月に1回程度はボランティアの方々が来られ、音楽や本を楽しむことが出来るように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が町内の病院を利用したことがあり、通院の支援を行なっています。町外の病院は原則家族対応ですが、必要に応じ付き添ったり通院支援も行なっています。	沼田厚生クリニックの通院に職員が同行し、町外にある病院受診は家族が対応している。通院時に書面や口頭で健康情報を伝えているが職員が同行する事もある。受診内容はパソコンで記録し、個人ごとの抽出で経過を把握している	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが、隣接施設の看護職員に相談している。介護職員は日々利用者の健康状態を把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合は、病院へ生活状況を伝え家族とも連絡を取って治療方針などを話し合っている。早期に退院できるよう、入院後の状況なども病院と連絡を取り確認するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師がいないため、医療行為が発生しない範囲で可能な限りのサービスを提供している。重度化した場合の対応は入所時に重要事項説明書にて説明し同意をいただいている。	「重要事項説明書 追加事項」に、重度化や看取りの対応について、分かりやすく事例を記載して同意を得ている。看取りは行っておらず、食事の形態を工夫して可能な限りケアを行っている。対応が難しい時は病院や施設などの紹介もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。定期的に救命講習を行い、職員全員が受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年に2回昼間及び夜間を想定した避難訓練を利用者と共に行なっている。地震についても避難訓練時に消防職員から講話をしていただくなどして知識を深め、マニュアルの整備も行なっている。	事業所単独で火災避難訓練を実施している。消防署立ち会いで夜間を想定した訓練を運営推進会議と同日に行い、委員は見学で参加している。地震や水害についてのマニュアルを整備しているが、訓練までには至っていない。	運営推進会議で災害時の地域との役割分担を明確にし、次回には住民の役割を設定して夜間を想定した訓練を期待したい。また地震などを想定し、各ケア場面での対応について話し合うことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの声掛けは周囲へも配慮しながら行なうようにしている。また、職員同士でも気になることはお互いに注意しあうようにし、全体会議で周知するようにしている。	実践者研修受講者から認知症対応について学んだり、馴れ合い的な話しかけがあれば全体会議で再確認している。申し送りは、利用者に聞こえないように配慮して事務所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事での利用者の希望を聞いたり、行動や言動で意思表示できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望を聞きながら、各々のペースに合わせた趣味活動を促し楽しんでいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は本人に選んでいただいたり、定期的に美容院へ行くなど支援している。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事の準備や片づけを一緒に行なっていただき、出来るだけ好みのもを提供できるようにしています。外出時には外食を楽しんだり、好みのものを出前でとるなど食事を楽しみが持てるように工夫をしている。	家族交流会でジンギスカンを楽しんだり、お弁当を取り寄せて食べることもある。利用者は食材を切ったり、おにぎりやホットケーキなどを一緒に作っている。誕生日は、本人の好きな献立にして個別にお祝いでいる。畑で収穫したジャガイモや南瓜で旬を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや摂取量を考えながら提供している。食事や水分の量はその都度記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きやうがいを行なっている。本人の力に応じて仕上げのみ介助するなどしている。また、必要に応じて歯科医師に連絡し通院支援や往診をして頂き対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況も一人ひとり記録し、時間を見ての誘導や声掛けを行なっている。介助が必要な方にも出来る限りトイレで排泄していただけるよう誘導し、立ち上がりなど自立に向けた取り組みを行なっています。	身体状況に応じて二人介助でトイレでの排泄を支援したり、夜間のみポータブルトイレを使用することもあるが、現在は半数程の方が自立している。退院後に立位保持が出来るように支援し、排泄面でも改善がみられた利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜ジュースなどで促したり、軽い運動も取り入れながら便秘の予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、個々の状態や体調に合わせてその都度対応している。また、年に1度は温泉レクも行い温泉での入浴を楽しめるようにしている。	月・木・金曜日で、湯温や入浴順などに配慮して週2回の入浴を支援している。身体状況や健康状態に応じてシャワー浴や足浴、清拭などで対応している。声かけのタイミングに配慮したり入浴剤を使用して楽しく入浴できるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や生活習慣に応じて休息していただき、夜に熟睡できるよう日中に趣味の活動や軽い運動などを促し、日中の睡眠時間を調整できるように促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を一人ひとりファイルに綴り、理解するように努めています。処方が変わったときにはその都度、連絡ノートで全員に周知し観察するようにしています。また、投薬時には複数の職員で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事動作でも出来ることは行なっていただき、菜園作りやぬり絵、短歌などそれぞれの趣味が活かせるように対応しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物には日常的に出掛けています。夏場にはそれぞれの希望を伺い、海、花畑(ひまわり、バラ、菜の花等)などに出掛け、全員で外出することもある。また、少しの時間であれば近隣の公園や隣の衣料品店などへ出掛けています。	敷地内や近隣を散歩したり、車椅子を使用している方も花壇や畑を見ながら外気浴をしている。冬季も受診や町内の行事に出かけたり、天候が良ければ近隣を散歩している利用者もいる。季節に応じた花見や紅葉見学などを取り入れながら、多くの外出機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者は事務所で管理をしているが、本人の希望で毎月お小遣いを渡し、好みのお菓子を買うなどされている。また、買い物に出かけた際には、財布を渡して支払いをすることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも事務所の電話を使用して対応している。また、携帯電話を持参された方も、本人の力に合わせて取り次ぐなどの対応をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の作品を飾ったり季節に合わせた花や飾りを一緒に飾るなどしている。床暖房が常時入っているため暖かさを感じられるようになっています。	居間と食堂を中心に居室が配置された明るく開放感のある造りで、季節の生け花や手作りの雛人形、掛け軸の雛飾りなど、季節感に配慮した装飾を行っている。職員は、きらびやかにならないような装飾を心がけ、町民芸術祭に出品したちぎり絵などをさりげなく掲示しながら、家庭的で温もりのある環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物上、共用空間がワンフロアのため居室以外で1人になれる場所がないが、座席の位置や家具の配置で工夫するようにしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が自宅で使用していた家具等を持ち込んで頂き、写真を飾ったり、本人にとって好みの空間となるように工夫しています。	手作りのネームプレートが掛けられている居室には、仏壇や神棚、使い慣れたタンスや文庫本などが持ち込まれている。工具類を持ち込んで、趣味を継続している利用者もいる。家族の写真や表彰状、自分の作品を飾り自宅のようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境となるように、利用者の身体状況に合わせて介護機器を設置する等、全体会議などで話し合いながら検討しています。		

目標達成計画

事業所名 沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

作成日：平成 28年 3月 14日

市町村受理日：平成 28年 3月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族の関心あるテーマなど、各会議のメインテーマを設定して案内状を送り、参加できない家族の意向も得て、会議の話題にし、意見や情報交換の場となるような工夫。	運営推進会議での意見・情報交換が活発になる。	運営推進会議の年間計画を策定し、テーマを会議案内で周知することで、欠席する家族からの意見も伺えるようにします。	1年
2	35	運営推進会議で災害時の地域との役割分担を明確にし、住民の役割を設定して夜間を想定した訓練を期待したい。また、地震等を想定し、各ケア場面での対応について話し合う。	災害時の地域との役割分担を行い、夜間を想定した避難訓練を実施する。	運営推進会議等で地域の方々の協力を呼びかけ、災害時の役割分担を行い、緊急時の体制を整えます。また、全体会議などの場で各ケア場面での対応について話し合う機会を設けていきます。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。